

週 報

こひつじ

第41巻 50号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

種蒔きのたとえ

その五 いばらの真中に落ちた種

第三は、雑草の生い茂る地である。イエスは言われた。

「また、別の種はいばらの真中に落ちた。ところが、いばらもいつしよに生え出て、それを押しふさいでしまった」と。

土地の養分は限られている。一つの作物がよく育つには、他の不要なものを除く必要がある。

果樹園の農夫も、よい実を実らせるために余分な枝を払うのではない。

同様に、よい人生とは簡素な人生だと言ってよい。あれにもこれにも手をだして、自分を分散させるのではなく、ほんとうの自分の人生を生きたことである。

フランスの作家モーロワは「仕事の仕方」についてこう語る。

「働く者すべてが守るべき共通の心得がある。その第一は、いくつかの可能な仕事のうちから、一つを選択することである」

「物事をなす人、仕事をやり遂げる人とは、ある一定の期間は、唯一つの事にしか興味を持たぬ人のことである」

「最少のことをなさい。だがそれを完璧に、堂々としたやり方でなさい」

さらにマネジメントの発明者ドラッカーは言う。

「よい仕事をする人は、もっとも重要な事から始め、しかも一度に

一つのことしかしないものだ」

多くの堅実で、意味ある人生を送った人は、自分の枠をもっていた。

パウロの伝道が成功したのは、彼の働きに枠があったからである。

彼は、ユダヤ人の伝道はペテロや

他の弟子たちにゆだね、異邦人の伝道に自分の働きを限定した。彼は常に、自分の定めた限度内で伝

道し、他人の領域に入ってゆくことはしなかったのである。パウロは言う。

「私たちは、自分の限度を越えてほかの人の働きを誇ることはしません。・・・私たちの領域内で私たちの働きが広げられることを望んでいます」(二コリント一〇の一五)

「私は、他人の土台の上に建てないように、キリストの御名がまだ語られていない所に福音を宣べ伝えることを切に求めたのです」(ローマ一五の二〇)

私たちの、そのような囲いや枠があるだろうか。

製本屋の小僧から世界的に有名な科学者になったフアラデーは、彼の業績が世界に認められ始める

と、講演や特殊な研究の依頼を受けるようになった。それは彼に多くの臨時収入をもたらした。しかし、彼には、そのような外部の仕事がしだいに煩わしく思われてく

る。

友人たちは、

「なぜ両立できないのか」とたずねる。

「やりたくないんだ」とフアラデーは答えた。

「外部の仕事によって報酬を受ければ、自分は自分の主人でなくなってしまう。新しい考えが浮かんでも、そちらを向くことができない。人生は短いだから、自分に託されていない仕事をするわけにはいかないんだよ」

フアラデーは自分の信念に従い、外部の契約を断わり始め、数年後には、ついに臨時収入はゼロになる。

こうしてかじ屋の息子、かつての製本職人であったフアラデーは、その気になれば巨万の富を築き上げることもできたのに、一方に科学、他方に富という二つのものに挟まれて選択を行ない、生涯の終

わりまで、貧しいままでいることに甘んじたのである。

しかしそれによって彼は、自分の心を分散から救い、自分に託されたものに集中させることができた。そこに彼の充実した人生の秘訣があったと言えないだろうか。

市民クリスマス報告

どんな種を蒔くのか。どんな土壌にそれを蒔くのか。人生はそれにかかっている。そして種とは言葉であり、土壌とは私たちの心なのである(終)

今日の礼拝

○礼拝は午前一〇時半から。

○教会学校は午前一〇時半から。

○説教は米村牧師。

○クリスマスの特別パフォーマンスが準備されています。

先週の礼拝

○司会は林田実季さん。

○説教は西岡潤也さん。イザヤ

四〇の六から、人は草のように弱いが、永遠に変わらない神の言葉によって支えられると語ってくだ

さいました。

○礼拝参加者は七七名(男二九、女四八)、それに子どもが五名、合わせて八二名でした。

市民クリスマス報告

一二月六日は、坂田壮一・直子夫妻の長男飛鳥さんが、熊本市民クリスマス(会場はルーテル神水教会)のメインゲストで出演するというので、出かけました。

プログラムには、「日常の生活の中で生まれる想いを、ピアノやギターとともに繊細であたたかな歌声で表現するシンガーソングライター」と飛鳥さんのことが紹介されていました。

仲間のバイオリニストやチェリストとともに、すばらしい演奏と歌声を聴かせてくれました。参加者は一五〇人ほど。どちらかという中高年の方が多いようですが、アンコールを求める大きな拍手に応える場面もありました。

一月の会計報告

便り 伊藤妙子

米村英二様、

いつも週報とお手紙をお送りいただき、ありがとうございます。毎回、英二さんの豊かな文章にふれ、感動し、お読みしております。

「大地がよければ、福音の種がもたらす実りはきわめて大きい。問題は種ではない。蒔く人でもない。土地である。心である」

また私はすばらしい大津教会の方がたとつながりが保て、とても感謝に思っています。

先日は、ケリー(チャック・ニコラス宣教師の長女)さんたちとお会いできなかったのは残念でした。五〇年以上も前、私の勤めていた銀行に、当時二歳ぐらいのデ

イモン君を肩に乗せてチャックさんが来られたときのことを思い出します。奥さんのペギーさんのお

顔もすてきで、忘れられません。チャックさんもスプア宣教師も、

今の大津教会を見てたいへん喜んでおられることでしょう。

私は一〇月三〇日に入院しました。私には、白血球があと三倍必要だそうです。毎日、点滴など、

いろいろな治療を受けています。でも主がともにおられるので感謝です。

今回、台湾の教会を訪ね、大変な歓迎を受けられたそうで、台湾の方たちが日本の教会を愛し、祈

ってくださっていることをうれしく思います。大津教会の皆様の上に豊かな恵みがありますように祈

っております。また皆様にお会いできる日を楽しみにしております。

教会の内装工事

牧師のメールアドレス

yonemura@ja2.so-net.ne.jp